

文化女大家政 ○桑名 寿一  
時光 明美

1. 昨年次の事を述べた：DDVP 剤ガスが繊維品に吸着され、このため容器が空の場合と繊維品を収容した場合とで、同一防虫効果をうるために使用する薬剂量に大差を生ずる。ここではキュプラについてだけ実験したので、その後普通の種類の繊維品について実験し、また防虫剤として *p*ジクロルベンゼン、ナフタリンについても調べた。

2. 内容約 15 l のガラス円筒の中段に、断面の中央約  $\frac{2}{3}$  に、布（異種原料 7 種）をおきこの上 20 cm に薬剤、下 20 cm に試験虫（ヒメカツオブシムシ幼虫）（試験羊毛糸とともに）をおく。25°C に 1 週間放置し、薬量 - 死亡率 - 羊毛食害量関係を調べる。これを容器の空の場合と比較し、繊維原料による結果の差異を考察する。

3. 以下有効最少薬量 (mg/15 l) を各場合について記す。

DDVP：空，5. 羊毛，4000. 木綿，500. アセテート，4000. キュプラ，50. ナイロン，10. ポリエステル 5.

*p*ジクロルベンゼン：空，60. 羊毛，250. 絹，120. 木綿，120. アセテート，2000. キュプラ，120. ナイロン，500. ポリエステル，500.

ナフタリン：空，500. 布在中の場合，アセテート，ナイロンでは 5000，2 週間で無効，羊毛，絹，木綿，キュプラ，ポリエステルでは不十分。さらに長期の処理を要する。